

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子どもの生活研究所 めばえ学園		公表日	2026年 3月 27日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・法令に準じたスペースを確保しています。 ・こどもの状態や活動内容により、居室の他、体育室や園庭等を使用しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基準の配置に加え、看護師や非常勤の言語聴覚士、公認心理師等を配置し、支援の質の向上に務めています。 ・こどもの特性上、個別の配慮や対応が欠かれないため、基準の職員数では対応困難な状況です。集団療育を2部制にして、グループのこどもの構成人数を抑える等、運営上の工夫をしています。	基準の職員数では対応困難な状況があります。引き続き運営上の工夫が必要です。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・一人ひとりの子どもの特性や状態に応じ、パーテーションで仕切った空間や本人の拠点となる空間を設ける等、安全で落ち着けるような環境設定を工夫しています。 ・持ち物の置き場所や教材の収納場所、活動内容やスケジュール等、子どもから見て分かるように写真や絵等の視覚的なツールを使用しながら、コミュニケーションの取り方を工夫しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・その時々の子どもの状態に合わせた環境設定を工夫するとともに、状況の切り替え時等、こまめに玩具を片付け、刺激を整理し、こどもが活動に参加しやすいように環境を整えています。 ・療育終了後に、掃除や消毒等を十分に行ない、清潔を保つよう努めています。	・建物が老朽化していることもあり、安全で清潔な空間を保っていくために、引き続きの注意・点検が必要です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		刺激を避けて静かに過ごしたり、集中して課題に取り組む等、こどもの必要に応じて個別の空間や場所を使用できるようにしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		業務改善は、その時々随時検討しています。職員会議やグループ打ち合わせで確認、検討しています。	目標設定と振り返りをもう少し明確化していきたいと思います。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年、事業所評価のための保護者へのアンケートを実施し、保護者の意向を把握するとともに業務改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議や打ち合わせを定期的に行ない、職員の意見を把握する機会を設けています。必要に応じて業務改善につなげるよう努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		3年に1回、第三者評価を受診し、業務改善に繋げています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人のキャリアパスと連動して職員育成に力を入れています。職員個々の育成課題に合わせた研修計画を作成し、法人内外の研修に積極的に参加するよう努めています。	・さらに日常のOJTやスーパービジョン体制を充実させていくようにしたいと思います。 ・研修後の振り返りや成果を検証することで、職員自身が成果を実感できるようにしていきたいと思います。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		こどもの行動観察と保護者への聞き取りにより、また相談支援事業所とも連携し、こどもと保護者のニーズを適切に把握するよう努め、児童発達支援計画を作成しています。	言語聴覚士や公認心理師との情報共有の時間を確保し、こどものアセスメントをさらに適切なものにしていきたいと思っています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画の原案を作成した上で、支援に関わっているグループの職員が参加して検討会議を実施し、適正な計画の作成に努めています。	

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		必要に応じて言語聴覚士による言語発達検査等実施し、結果を共有しています。また日々の行動観察によるアセスメントにより、子どもの状況を把握し、グループ打ち合わせの機会に職員間で定期的確認・検討しています。	現状、専門職による検査は一部の児童への対応に限られるため、引き続き、標準化されたアセスメントツールの使用を検討していきたいと思います。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日常的に、またグループ打合せ等の機会に職員間で話し合いながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・個々のこどもの状態や発達課題に合わせて、活動プログラムを見直し変化させていきます。また、こどもが活動や遊びを選択できるように工夫しています。 ・こどもの状態によっては、見通しを持ちやすく安心できるようにするために、あえて固定する場合もあります。	活動プログラムが偏らないように配慮すると共に、個々の状態や状況に応じた活動のバリエーションをさらに増やしていきたいと考えます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団の枠組みでの療育を基本としていますが、子どもの発達段階に合わせて、個別活動や小集団活動を取り入れた支援を行っています。	・集団の枠組みの中で、個別の発達課題に積極的にかかわる機会を設けられるよう、さらに工夫していきたいと考えます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝必ず、支援開始前に打ち合わせの時間を設け、その日の動きに等について確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に時間を取りにくいことも多いため、翌日の朝の打ち合わせで、必ず全職員で前日の支援の振り返りを行い、情報共有するようにしています。特に注意を要すること等は、なるべくその日のうちに共有できるよう努めています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			なるべく効率的に必要な記録を取るよう、今後も検討していきます。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適宜、こどもの変化を把握するとともに、保護者の意見をききとりながら、見直しの必要性を判断し、定期的に見直しを行っています。		
関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者以外に、必要に応じて管理者や療育の担当者が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、連絡を取り合い情報共有しながら支援を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・こどもや保護者のニーズに応じて、随時、併行利用や移行に向けての相談・助言等を行っています。 ・併行利用先の保育園や幼稚園と連携し、訪問や電話等で情報共有と相互理解に努めています。 ・同事業所で開始した「保育所等訪問支援事業」と連携して、併用先との連携を深めています。	インクルージョン推進の観点から、全体としてこどもの安定した生活とより良い成長が可能になるよう、引き続き積極的な連携に努めていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行支援として、就学支援シート等を活用して引継ぎを行っています。	必要に応じて、直接の引継ぎや随時連絡を取り合うことのできるよう連携を進めていけると良いと考えます。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		世田谷区主催の児童発達支援事業所連絡会や砧地域の事業所連絡会に参加して、他事業所と情報交換をしたり、併用先の事業所と連携して、こどもの情報共有を図ったりしています。	引き続き、連携を広げていき、地域全体の質の向上に資する取り組みを検討していきたいと思います。	

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		・専門講師（臨床心理士）の助言を定期的に受けている他、同法人が東京都より受託運営している発達障がい者支援センターの実施する研修や法人主催の研修等に職員を参加させています・ ・職員の研修計画によって、拠点内にある発達障害センターからのスーパービジョンを取り入れたり、外部研修にも積極的に参加できるよう努めています。	引き続き、必要な研修に参加していけるよう、研修参加の時間確保等、工夫していくよう努めます。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○				
	31	(31は、事業所のみ回答)	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	非該当			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	○		・同じ敷地内に同法人が運営する認可保育所があり、日常的に園庭遊びや季節行事等で交流する機会があります。 ・同敷地内で、保育園が実施する「子育て広場事業」で地域の子どもたちと、状況を共有する機会があります。	身近に保育園がある環境を生かし、個々の子どもの発達段階に合わせて、計画的に交流をすすめて行けるよう努めています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・連絡帳のやり取りや、送迎時に保護者と引継ぎをして、日頃からこどもの状況について情報共有し、共通理解を持っていくよう心がけています。 ・必要に応じて、随時、面談や電話等でやり取りするようにしています。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		専門講師による臨床動作法の親子セッションを月1回実施している他、保育参観や言語聴覚士による発達の勉強会、ペアレントメンターによる講演会、就学についての情報提供の会等を実施しています。	家族支援を、幼児期の支援における重要課題として、さらに有効な支援を検討していきます。		
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		入園時や、年度末の保護者会で、重要事項を説明する際に、わかりやすく丁寧に説明するよう心がけている。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者会や個別面談の機会を定期的に設けている他、必要に応じて随時、面談や電話での相談や助言を行っています。		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者同士の交流を目的に、年3回「茶話会」を開催しています。	兄弟同士で交流する機会は、今のところ特に設けていません。今後ニーズを確認しながら、必要に応じて検討していきたいと思えます。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・随時、こどもや保護者からの話を真摯に受け止め、丁寧に対応するよう心がけています。相談や申し入れには、送迎時や連絡帳、電話等で、迅速に対応しています。		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月「月のお知らせ」を配布し、翌月以降の予定や必要事項について発信しています。		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報保護規定及び個人情報保護ポリシーに基づき、個人情報の利用目的を明示し、情報提供同意書によって同意の確認を行うようにしています。 ・職員に対しては、「婚泉職員てびき」や職員研修で周知徹底しています。 ・個人情報の書類のある棚は、施錠管理しています。		
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			こどもや保護者の状態に合わせて、個々に対応しています。		

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		コロナ禍以前は法人行事としてバザーを開催し、広く地域住民を迎え入れていたが、現在は地域の行事に参加、協力するという形をとり、地域との交流を図っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定して、訓練を実施しています。	・職員や家族への周知が不十分であるため、引き続き周知に努めています。 ・発生の状況を想定し、さらに実効性のある訓練を検討していきたいと思います。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、年間で計画的に訓練を行っています。	さらに、訓練の内容を検討し、実効性のある訓練を行っていく必要があります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。			・入園オリエンテーション時及び初回アセスメント時に書面にて確認し、看護師の聞き取りをしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・入園オリエンテーション及び初回アセスメント時に看護師等、栄養士等の聞き取りを行い、医師の指示書の提出をお願いしています ・アレルギーのある子どもの献立表を別に作成し、除去材料を保護者と確認、提供時には検食者が確認をしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、安全管理を重視した環境整備や職員への注意喚起に努めています。	安全管理に必要な研修や訓練を積極的に取り入れていきたいと思っています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		こどもの安全確保について、入園時や重要事項の説明の際に合わせて、家族に周知するよう努めています。	家族への周知が不十分な点があるため、確実に周知していくよう努めます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットと対応策について、朝の療育開始前の打ち合わせ時に共有し、再発防止に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		運営基準に則り、虐待防止委員会の定期的開催、虐待防止マネージャーの設置、職員への定期的な研修の実施と周知徹底、虐待防止チェックリストの実施等、取り組みを進め、虐待防止に努めています。	引き続き、こどもの権利擁護への職員の意識を高め、支援の質の向上に努めていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		運営基準に則り、身体拘束適正化を図るための措置を講じている。やむを得ず身体拘束を行う可能性のある場合には、児童発達支援計画に記載し、子どもや保護者に説明し了解を得るようにしています。	